

会 議 等 結 果 報 告 書

| | | | |
|------|---|------|------------------|
| 会議区分 | 会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議 | 文書番号 | 786 |
| | | 決裁期日 | 平成 23 年 1 月 27 日 |
| 名 称 | 上富良野町地域新エネルギービジョン策定委員会 第 4 回会議 | | |
| 日 時 | 平成 23 年 1 月 27 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 40 分 | | |
| 場 所 | 保健福祉総合センター研修室 | | |
| 出席者 | 策定委員 9名、オブザーバー 1名、事務局 3名、委託調査会社 2名 計15名 (別紙名簿のとおり) 向山町長 (挨拶) | | |
| 内 容 | <p>策定委員会の第 4 回会議を開催、その概要は次のとおり。</p> <p>1. 開会 町民生活課長から開会を宣言し、欠席の委員を報告。</p> <p>2. 委員長挨拶 濱田： 第 4 回目の会議は最終となり、ビジョン報告書の確認をいただく場となるので審議をお願いする。</p> <p>3. 議事 濱田委員長の司会により進行する。</p> <p>(1) 新エネルギービジョン (案) について (13:32～) 株ドーコン (竹森副主幹) から資料に基づき説明。 委員長： ビジョン案に関する資料、今後に向けた展望も含めて意見を願います。 委員長： 本編 4-25 のカミホロ荘の表記は町外の方が見てもわかるように工夫することと、概要版の誤表記箇所の訂正をお願いする 委員： 町のエネルギーに関して勉強する良い機会となったと思う。理想的なことも述べてきたが、これに基づいて進められればと思う。 委員長： 次年度以降の展開に期待したい。 委員： 良い資料ができたと思う反面、これから実現に向けて動いていくには大変なこともあると思う。今後、町民の理解を得ながらできることから進めていければと思う。ビジョンには学校における環境教育プログラムの充実がうたわれている。実施にあたっては体制作りなどから早めの相談をお願いしたい。学校にはノウハウが無いためコーディネーター的な人材の整備が必要で、その中で子どもへの環境教育ができればと思う。 委員： 膨大な資料が整備され、消化不良になる感じはあるが、これでスタートにたったと思う。 委員： 資料はすばらしいと思う。目標の 2020 年までにどこまで進められるのか、関わった委員として責任も感じる。できるところから実行力を発揮してほしいと思う。 町民生活課長： 来年度にはエネルギーに関する助成策として、エコ家電製</p> | | |

品の導入、太陽光の活用、エコ住宅化、生活灯のLED化などに予算化を図っているので取り組んでいきたい。

委員： テレビ放送で温泉熱の利用に関する放映があった。相当の距離を配管し、発電やプールなどに活用していたので、町も温泉熱の利用を考えられればと思う。

委員： 費用対効果の問題はあるが、温泉熱は恒久のエネルギーとして検討する価値はあると思う。

委員長： 次年度以降の調査研究の取組みに期待したい。検討する場作りが大切と思う。

星主幹： 利用可能量を目標にしているのので、いかに町民の理解を得て取り組んでいけるかが重要と思う。エネルギーに関しては色々な助成策が講じられており、町民にわかりやすく役場で整理して、適切な情報提供をしていただければと思う。

委員長： 他に意見無ければ案を取っていくこととなる。町から今後のスケジュールについて説明をお願いします。

生活環境班主幹： 今回の会議を受けて成案にしていく。2月以内に印刷製本し、ホームページへの掲載や主要施設への配布など周知していく予定。次年度にはエネルギーに関する助成策の予算を計上しているのので、決定次第お知らせしていく。

4. その他：

委員長： この後、町長から挨拶が予定されているので、それまで意見交換にしたい。

委員： 省エネと新エネのビジョンが作成されたことから、マンガを用いた、わかりやすいポスターを作成し町民に知っていただくことはどうか。そのポスターには上富良野町をPRする内容を盛り込むことが良いと思う。

委員： 町民が活用できる制度づくりを進めてほしい。エネルギーの利用分野を絞り、たとえば住宅建築への助成などの助成策を講じ、利用を促進してはどうか。

委員： CO₂の削減は、全体で見ると人口増減に左右されるため、町民一人ひとりの行動別の削減を考えていくことが必要。

この後、町長から当委員会の活動に参加いただいた委員にお礼の挨拶が述べられ、委員との懇談を行った。

終了 (14:40)